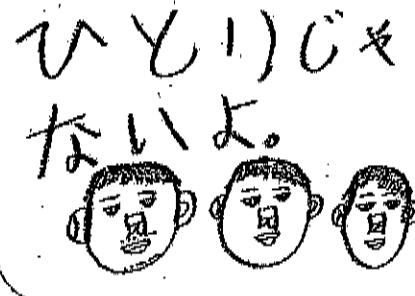


息子の介護 高齢の母

もう、おしまこい

障害者ケア 家族から社会へ



た。障害等の状態が変化したため一人では対応が困難になり、昨年、息子を入院させました。しかし、しなりくして病院から退院を迫られました。

相談するも…

「家に連れて帰るのはやつと懸つ」。埼玉県川口市で重度の知的障害のある息子(40代)を介護する女性(60代後半)が苦悩の末につぶやきました。女性は毎日で息子のケアを長年担ってきました。

定員60人の同施設は満室でした。施設長の園部泰田(やすゆき)さん(49)は、障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会(障協会)会長の新井たかねさん(76)に女性の対応を相談しました。

園部さんは「本来なら希望する人みんなに入所

してほしい」と話を語ります。「せめて、空きはなくとも『相談してよかった』と思えるように、次につながるようにしている」新井さんが電話をすると女性は「病院から紹介されたのは県外の施設。それでは面会できないし、決断できない」と話しました。冒頭の言葉をつづけました。その言葉が気に入り、「近いうちに行くから」と電話を切った新井さん。その日の夕方に女性宅を訪ねました。文関先で話を聞き、障害福祉サービスの相談窓口に同行すると約束する子だったといいます。後日、女性の恩子は県内のグループホームに入所できました。

△

全国で増加し

「老障介護」

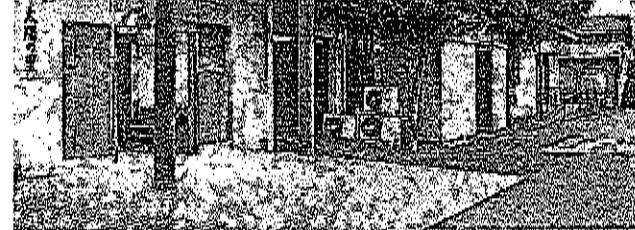
いま、障害のある成人の子どもを高齢の親がケアする「老障介護」が全国で増加しています。自身より大きな体の子どもをケアする身体・精神的負担や親「ま後のケア」の

だけの問題ではありません。当事者だけの問題ではありません。当事者や支援者、実際にケアに携わる人など、今、社会的に対応しないといけない緊急課題についています」

障金協会長の新井たかねさん

白岡市

障害者支援施設「太陽の里」=2日、埼玉県白岡市



扱い手など多くの問題があります。

同県で障害者入所施設への入所を希望していく

も空きがなく待機しているのは1526人(2022年8月現在)。もの

ばかりです。「太陽の里」だけでも147人(同)

です。

新井さんは女性との出来事を機会に「老障介護」は家族だけではなく、にもならない問題だと認識したといいます。「生

まれた子どもの障害があると、親はいろいろ苦労しながらも受け入れ

育てる仲間や専門職の人

に出会い、夢や希望も語

り、将来も考えてきた。

今、社会的に対応しない

といけない緊急課題にな

っています」